

いなしすわがた ししがき 伊那市諏訪形の猪垣

農作物食害を防ぐ

江戸時代、イノシシやシカなどによる農作物への被害を防ぐために、藤沢川から大田切川に至る標高700mの地域に造られた柵。

現在は、伊那市史跡の猪垣が残り、土手の上に乱杭を連ねた木柵が復元されている。



復元された猪垣



市指定史跡となっている



諏訪形の猪垣現況と復元想像図

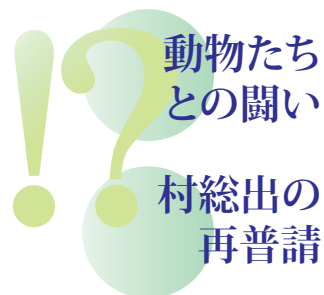
information

□ アクセス

駒ヶ根ICから10km
車→20分

□ 所在地

伊那市西春近



昔の人が動物から農作物を守るために闘い続けてきたことを示す貴重な資料となっている。このような猪垣は、西山山麓に多く構築されたものとされる。

1808(文化5)年、諏訪形の発案で宮田3か村(中越、下牧、表木)と赤木村と共同で行った再普請は大規模で、全体で延べ7200人余。諏訪形だけでも延べ2600人余の人手が出て修築が行われた。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)